

■齋藤隆夫 雄弁家で、〈二・二六事件〉の“肅軍演説”は感銘与え、日米開戦前夜の“反軍演説”で議会除名。

さいとうたかお

初の日刊新聞1870＝ 兵庫県出石郡室埴村字中村で、代々百姓の齋藤八郎右衛門の末っ子次男に生まれる。兄1人姉4人。

明治6年政変 1873＝ 3歳：

西南戦争・ 1877＝ 7歳： 福住小学校に入学。

琉球処分・ 1879＝ 9歳：

向学心強く、

明治14年政変1881＝11歳：

学友に誘われ、卒業前に、京都の西本願寺付属(弘教校)に入学するも、意を得ず、帰郷するが、農業に身が入らず、合橋村の安国寺に寄食して漢籍を習うも続かず、農業を手伝うかたわら、出石町の漢学者に入門して、漢学を教えてもらうなどするうち、どうしても農業をしたくないと、京都に出奔するが、自ら金を稼がねばならず、仕出し屋や駄菓子屋に雇われて働くも、勉学どころでなく、やむなく無銭旅行しながら、帰郷し、百姓仕事に従事。

初の対等条約1888＝18歳：

帝国憲法発布1889＝19歳：

覚悟の上、出奔。途中、荷物を盗まれ無銭になるも、出世してから返してくれば良いと面倒を見てくれる人もいて、無事東京に出、内務省地理局長をしていた同郷の先輩桜井勉の住み込み書生となる。桜井がまもなく徳島県知事になったため、随行して宿舍の玄関番をする。

足尾鉉毒始・ 1891＝21歳：

桜井が突然非職になり帰郷したため、再び上京、同郷の先輩らの支援で、東京専門学校行政科に入学、先輩らの助けに応えるべく懸命に勉強し、

日清戦争始・ 1894＝24歳：

首席優等で卒業。判検事試験に落ちるが、日清戦争終・ 1895＝25歳：

弁護士試験に合格、東京専門学校校長の鳩山和郎の弁護士事務所に入る。

白馬会・ 1896＝26歳：

この年、鳩山が衆議院議長となり、

八幡製鉄始・ 1897＝27歳：

子規句歌革新1898＝28歳：

鳩山が第一次大隈内閣の外務次官に就任するとともに、事務所を閉鎖したため、独立開業する。

田中正造直訴1901＝31歳：

この間、英語を勉強し、学費を貯め、事務所を閉めて、一旦帰郷後、渡米し、ユール大学法科大学院に入学、公法や政治学を学び、

教科書疑獄・ 1902＝32歳：

マサチューセッツ州ノスフィールドでの東部大学生による宗教大会に日本人留学生一同とともに招かれた際、万歳三唱が恒例と言われたのに唯一人反対、排外的ナショナリストでない性格が端的に表明される。

日露戦争始・ 1904＝34歳：

持病の肋膜炎が重症化、最初の手術の失敗で病院を訴え、1年間を棒に振って、瀕死の状態ながら、日本の立憲政治を完美する気概をもって、帰国し、

日露戦争終・ 1905＝35歳：

同郷の帝大博士和田垣謙三への批判含む「洋行之奇禍」を執筆。新居を構え、再び事務所を開業するが、

満鉄発足・ 1906＝36歳：

それまでの号“春峯”を捨て、*「比較国会論」を自費出版して、弁護士から政治家への転身を決意、

韓国反日暴動1907＝37歳：

「洋行之奇禍」を自費出版。

アヲキ創刊・ 1908＝38歳：

同郷の先輩加藤弘之を批判し、自らの政治的理性と気概を示す「族父統治と天皇機関説」を執筆して、

韓国併合・ 1910＝40歳：

結婚し、

大逆事件判決1911＝41歳：

長女が誕生。出石に近い養父郡出身で第1,2回衆議院議員となった佐藤文兵衛はじめ、有力者の支持を得、

明治天皇没・ 1912＝42歳：

*総選挙に立憲国民党から立候補、初当選して政界に入り、以後当選13回、

大正政変・ 1913＝43歳：

桂太郎が立憲同志党を結成、国民党から多数離党して合流した際、その一人となり、変節漢と呼ばれたのに嫌気がさしてヨーロッパ旅行する一方、政界の大物若槻礼次郎と懇意になって、以後、行動をともにする。

21ヶ条要求・ 1915＝45歳：

次の総選挙にも当選すると、「憲法及政治論集」を刊行して、天皇独裁制の危険性と立憲政治を説く。

民本主義・ 1916＝46歳：

大隈内閣が総辞職して寺内内閣が成立、対抗すべく憲政会に入るも、内閣不信任案には反対するが、

ロシア革命・ 1917＝47歳：

可決されて解散となり、総選挙で当選するも、国民党犬養毅の裏切りで、憲政会は孤立無援に。

本格政党内閣1918＝48歳：

長女と次女が疫病で死去。寺内内閣は米騒動で瓦解、原敬を首班に本格的な政党内閣が誕生し歯ざりし、

ベルリン条約・ 1919＝49歳：

この年、選挙法改正で小選挙区制に移したため、兵庫全県での支持を得られなくなり、

大暴落・ 1920＝50歳：

三女も肺炎で死去。他の野党との共同提出「普通選挙法案」に、党を代表して賛成演説、雄弁家として知られるようになるが、解散が断行され、落選の憂き目に会っても、地元の青年らの支持グループがつくられ、

原敬首相暗殺1921＝51歳：

政敵ながら仰ぐべき先輩として“一代の英傑”と呼んだ原敬が暗殺され、暗澹たる気持ちに。

関東大震災・ 1923＝53歳：

関東大震災による火災がせまるなか、這う這うの体で、家族を避難させるも、自宅は焼失。

護憲三派圧勝1924＝54歳：

四男が誕生。“齋藤宗”と呼ばれる強固な支援を得、護憲三派圧勝の流れもあって、総選挙に圧勝し復活、

治安維持法・ 1925＝55歳：

党務委員長に選出され、若槻の裁きでセツトにされて成立した治安維持法への関心は薄かったが、憲政会を代表して政府提出の「普通選挙法案」へ賛成演説、演説スタイルも確立。

日本時代始・ 1926＝56歳：

護憲三派連合内閣は崩壊するも、再び加藤高明に大命が降り、ついに憲政会単独の内閣が成立、加藤が急逝して継いだ若槻内閣となるが、

金融恐慌・ 1927＝57歳：

総辞職し、田中義一内閣が成立。浜口雄幸を戴き、政友本党残留者と合同した立憲民政党の総務の一人となる。

共産党事件・ 1928＝58歳：

「普通選挙法についてまとめたパンフレット」普通選挙心得」刊行、普通選挙法による初の総選挙で断然のトップ当選、政友会と民政党が伯仲する二大政党になる。選挙結果を見ての名演説「正しき者に勝利あり」のなかで、早くも政党政治が国民に背き自滅して行くことを予告。

世界恐慌・ 1929＝59歳：

浜口雄幸内閣では、内相は安達謙蔵のもと、内務政務次官となり、

海軍軍縮条約1930＝60歳：

この年、政友会の犬養毅・鳩山一郎らがロンドン海軍軍縮条約を“統帥権干犯”と攻撃、

満州事変・ 1931＝61歳：

浜口内閣が総辞職し、続く、第2次若槻礼次郎内閣の法制局長官に就任するも、すぐに総辞職となる。

五一五事件・ 1932＝62歳：

犬養首相暗殺で成立した挙国一致の齋藤実内閣で、山本達雄内相のもと、内務次官に再び就任。

国際連盟脱退1933＝63歳：

帝人疑獄事件1934＝64歳：

選挙法問題に力を入れ、比例代表制の導入を強く主張したが、齋藤実内閣は総辞職。

二二六事件・ 1936＝66歳：

総選挙にトップ当選直後、政党政治の終焉を告げることになる*二・二六事件に衝撃を受け、直後の議会で軍部批判の「肅軍に関する質問」演説、小さな身体で堂々と一人で闘う演説に、広田首相や寺内陸相がうなだれ、犬養健は落涙、翌日の新聞の第一面を埋め尽くし、“肅軍演説”として語り継がれる。

日中戦争始・ 1937＝67歳：

この年、近衛内閣が成立。

健保+総動員 1938＝68歳：

「国家総動員法案に関する質問」演説、

第二次大戦始1939＝69歳：

日華事変処理の見通しをさせないまま、近衛内閣が退陣してしまうと、その責任を追及すべく、

大政翼賛会・ 1940＝70歳：

米内内閣の議会で、東亜新秩序問題を軸とする「支那事変処理に関する質問」演説を、民政党の議長が速記録で2/3の削除を指示するが、地方紙には削除前の全文が掲載されてしまい、それが世界に打電されて大反響となったことに軍部が激昂、ついに「反軍演説」として、1/3も欠席する議会で、衆議院から除名。

日米開戦・ 1941＝71歳：

開戦直前、近衛には政治の実力が無い故そうなるだろうと予告するような「近衛文磨公を論ず」を発表。

..... 1942＝72歳：

東条内閣の翼賛選挙に抵抗し、非推薦にもかかわらず兵庫5区から最高点で当選、議席を回復。

創価学会検挙1943＝73歳：

長男はすでに軍務につき、学生だった三男・四男も出征するなか、「大東亜共同宣言の将来」を執筆、

敗戦・ 1945＝75歳：

大空襲で自宅焼失し、出石に疎開。敗戦に「大東亜戦争終る、日本敗れたり」執筆。日本進歩党の創立に参加し、

新憲法公布・ 1946＝76歳：

幹部のほとんどが公職追放となり、選挙でも自らはトップ当選も党は惨敗、吉田茂内閣で國務大臣、

新憲法施行・ 1947＝77歳：

日本民主党(芦田均総裁)の結党にあたって最高委員の一人となり、片山哲内閣でも國務大臣として入閣。

極東裁判判決・ 1948＝78歳：

自伝「回顧七十年」刊。社会党の姿勢に失望する一方、民主自由党結成に参画して、総務会長となったが、

三大事件・ 1949＝79歳：

身体が急速に衰え_没した。